

ひとつでも多くのコンテンツを、ひとりでも多くの人へ

株式会社メディアドゥホールディングス
2020年2月期 通期決算説明会



Media Do
HOLDINGS

証券コード：3678

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々には心よりお見舞い申し上げます。

また、罹患された方々の早期のご回復と感染の早期終息を心よりお祈り申し上げます。

当社は「著作物の健全なる創造サイクルの実現」をミッション、「ひとつでも多くのコンテンツを、ひとりでも多くの人へ」をビジョンに掲げ、文化の発展に貢献していきたいと考えております。

感染拡大による経済への打撃は避けられず、緊急事態宣言発出後の外出自粛など個人にも大きな負担がかかっています。

皆さまの不安を少しでも軽減できるよう、取引先、社員、一丸となって、コンテンツの流通に尽力いたします。

新型コロナウイルス感染症影響拡大も 事業継続に大きな支障はない

新型コロナウイルス対策

社員を感染から守るとともに、事業継続のための対策を実施

集会禁止・体温測定実施

集会は原則禁止としたほか、社員の健康状態把握を徹底（現時点で当社内における感染者報告は無し）

在宅勤務導入

取引先状況を踏まえ、時差通勤や在宅勤務を段階的に実施、緊急事態宣言発出後の在宅勤務率は**97%**

「在宅勤務手当」導入

在宅勤務を行う社員のために光熱費、通信費、業務環境セットアップを目的として手当を新設

変革の機会とすべく、今後も在宅勤務を維持する前提で環境構築・ルール整備を実施

「巣ごもり消費」により電子書籍利用がさらに促進する可能性

事業への影響

コロナ影響が表れる2020年3月の電子書籍流通事業の業績は**想定以上に好調**



- ① 自宅での娯楽や購買行動の増加、いわゆる「**巣ごもり消費**」の影響と推察
- ② いつでもどこでも読める電子書籍への関心が高まり、利用機会増加に直結
- ③ 一方、編集/製作/流通など出版活動に影響が及び、新刊刊行・配信が遅延する可能性

ライフスタイルの急激な変化による、読者の電子書籍利用促進／増加へ

- 1. 連結業績ハイライト**
- 2. 今後の成長方針**
- 3. 2021年2月期計画**
- 4. 参考資料**

Earnings Results

1. 連結業績ハイライト

連結業績ハイライト①

本業好調により売上・利益とも大幅増加

連結

売上高	658億円	(前年同期比+30%)
営業利益	18.5億円	(前年同期比+26%)
EBITDA	26.6億円	(前年同期比+11%)
当期純利益	8.8億円	(+21.2億円)

うち電子書籍流通事業

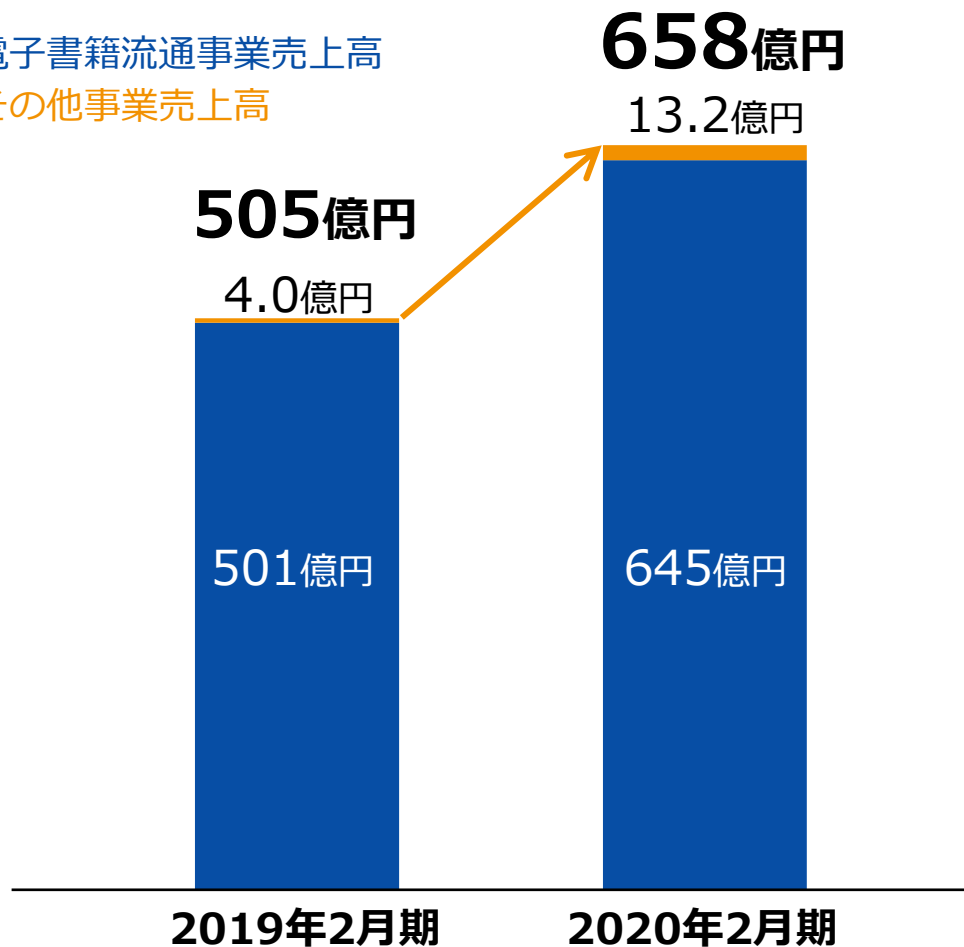
売上高	645億円	(前年同期比+28%)
営業利益	18.6億円	(前年同期比+15%)

売上構成比
98.0%

連結業績ハイライト②

連結売上高は600億円を突破

- 電子書籍流通事業売上高
- その他事業売上高



前年同期比
+30%
153億円増加

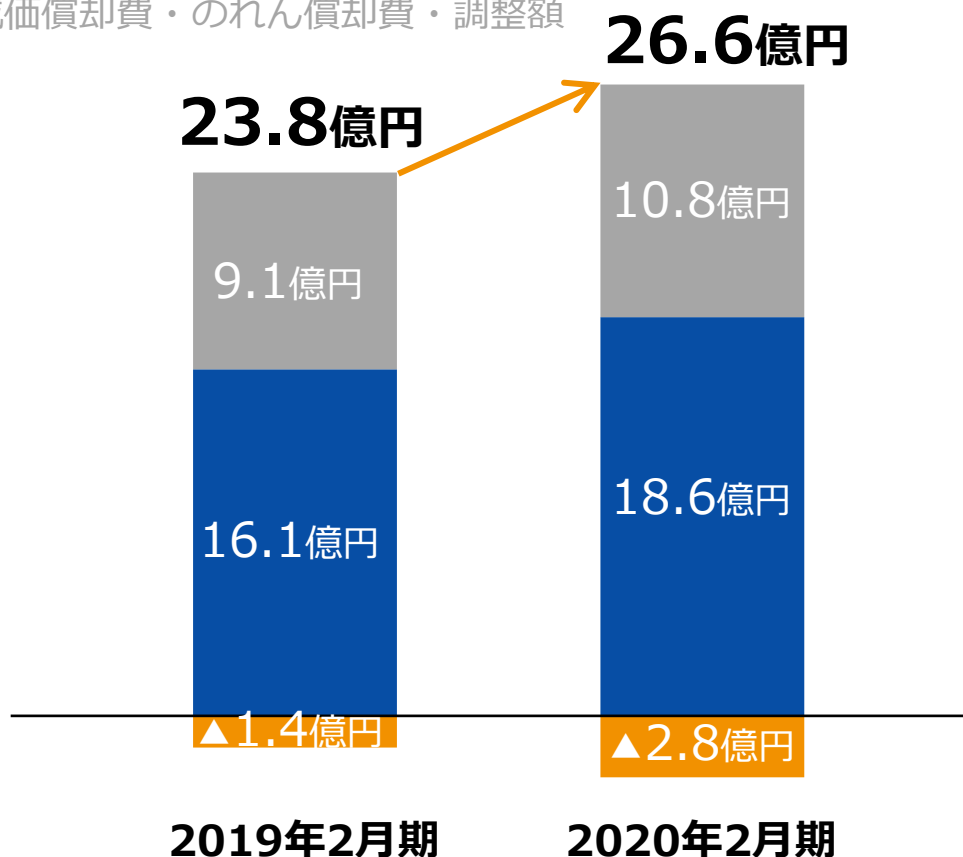
連結業績ハイライト③

売上増加に伴い、連結EBITDAも増加

■ 電子書籍流通事業営業利益

■ その他事業営業利益

■ 減価償却費・のれん償却費・調整額

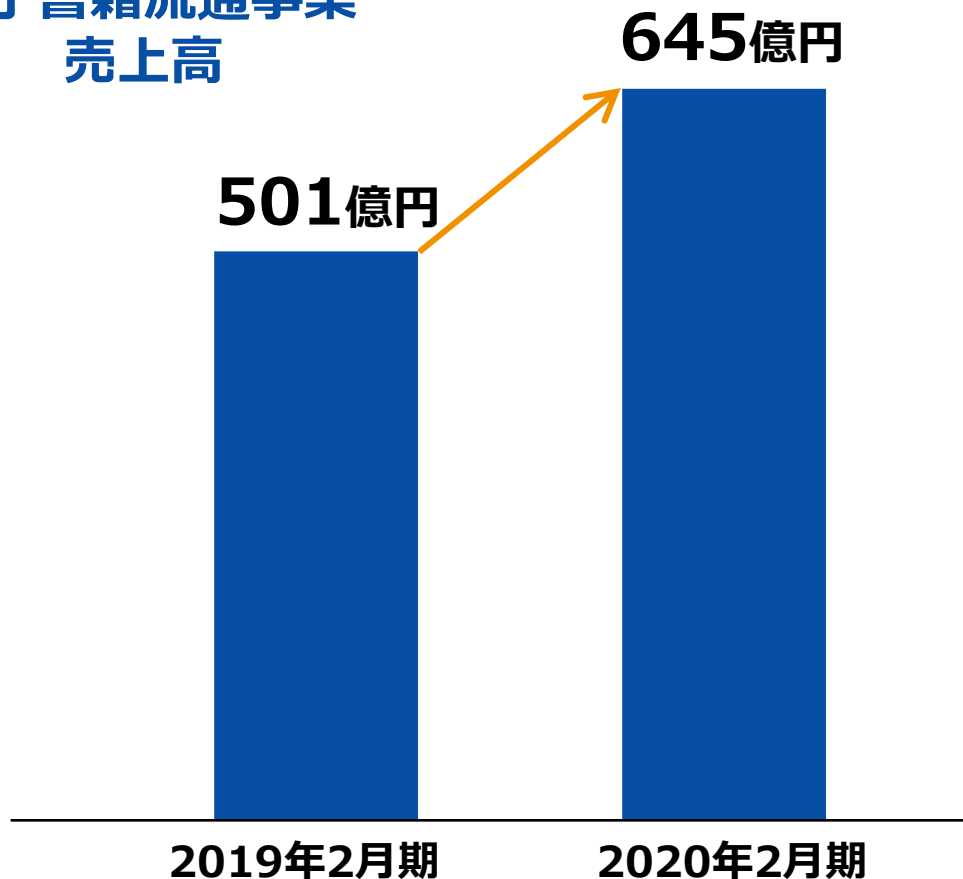


前年同期比
+11%
2.8億円増加

連結業績ハイライト④

堅調な市場拡大に伴い、本業売上高が伸長

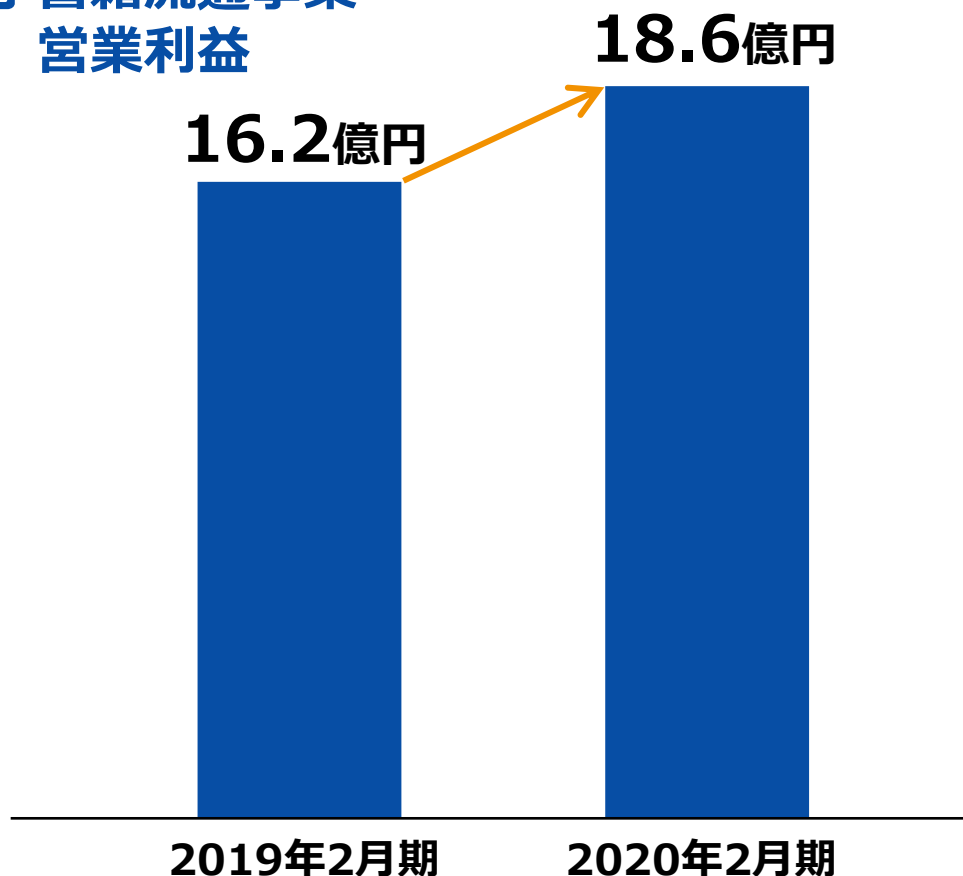
電子書籍流通事業
売上高



前年同期比
+28%
144億円増加

本業売上好調により営業利益も大幅増加

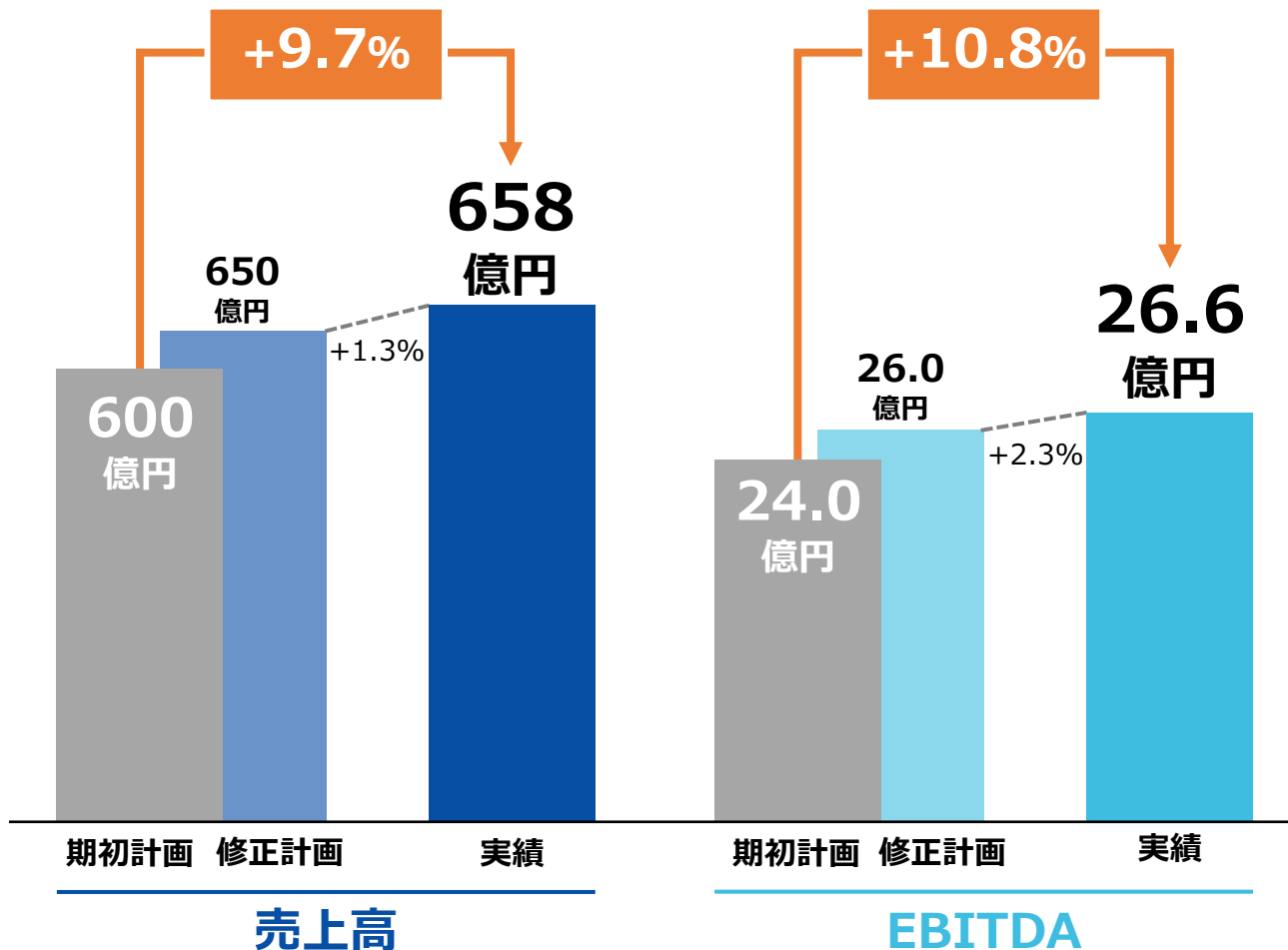
電子書籍流通事業
営業利益



前年同期比
+15%
2.4億円増加

連結業績ハイライト⑥

売上・利益とも期初計画・修正計画を超過



達成率*

売上高
109.7%

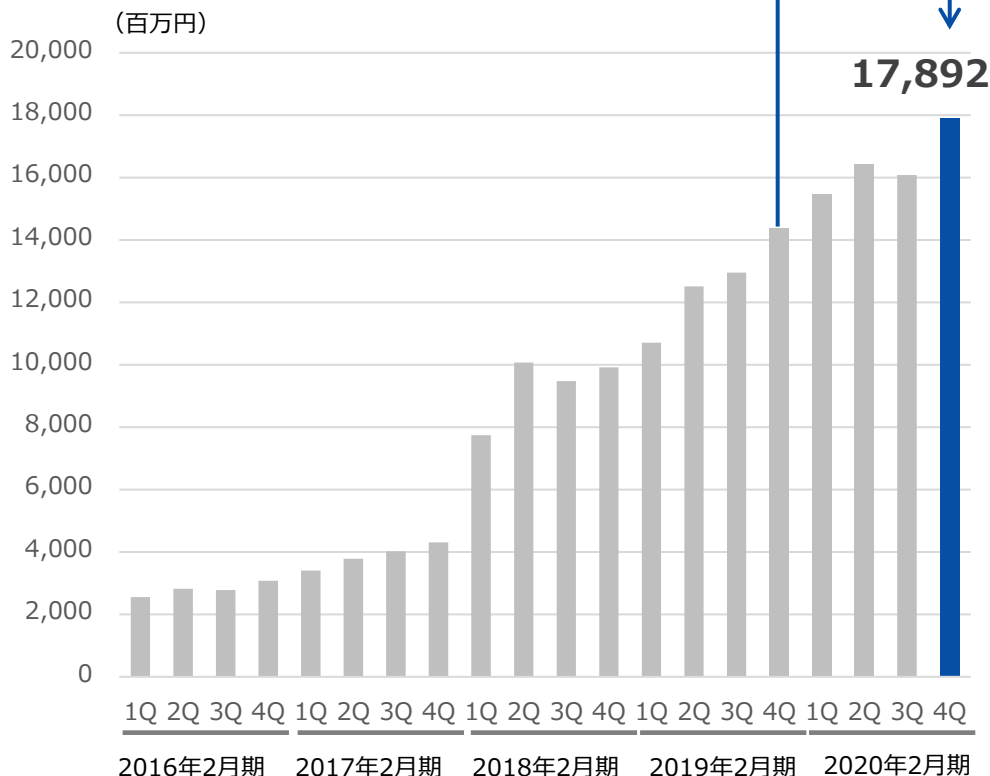
EBITDA
110.8%

※：期初計画は2019年4月10日に公表した数値、修正計画は2020年1月14日に公表した業績予想数値を記載。また、達成率は当初計画数値に対する割合を記載。

四半期連結売上高は過去最高を大幅に更新

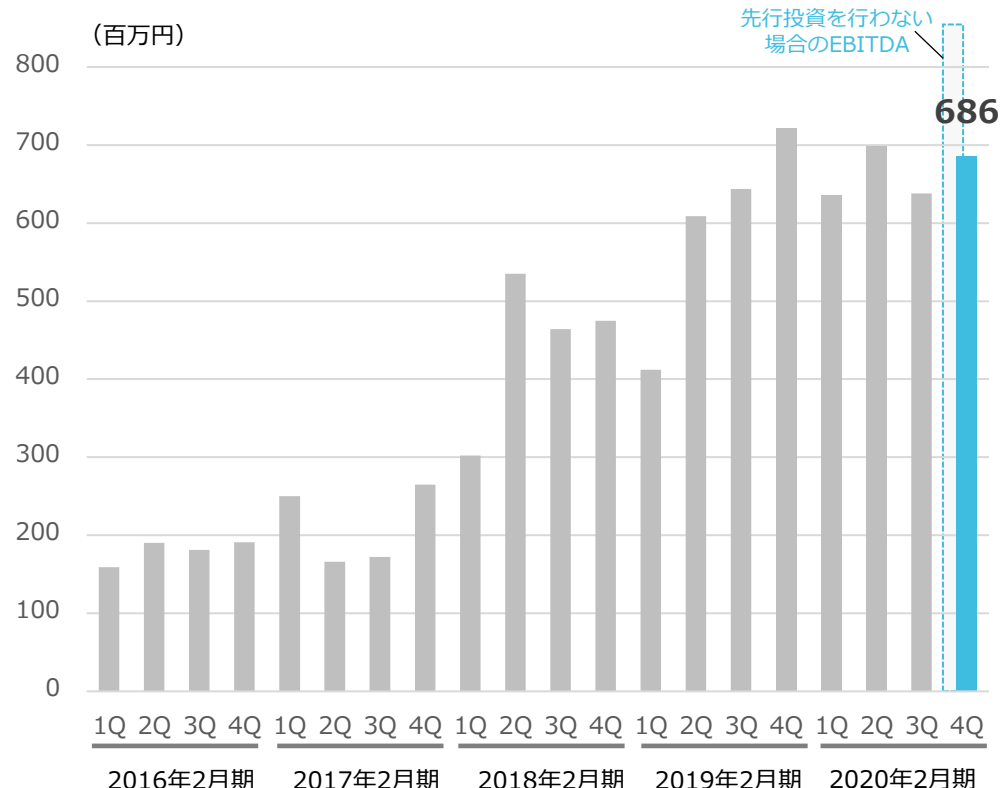
四半期連結 売上高 推移

前年同期比
+24%



四半期連結 EBITDA 推移

下期からの先行投資2億円
(うち4Qで1.5億円)
により前年同期比▲4.9%

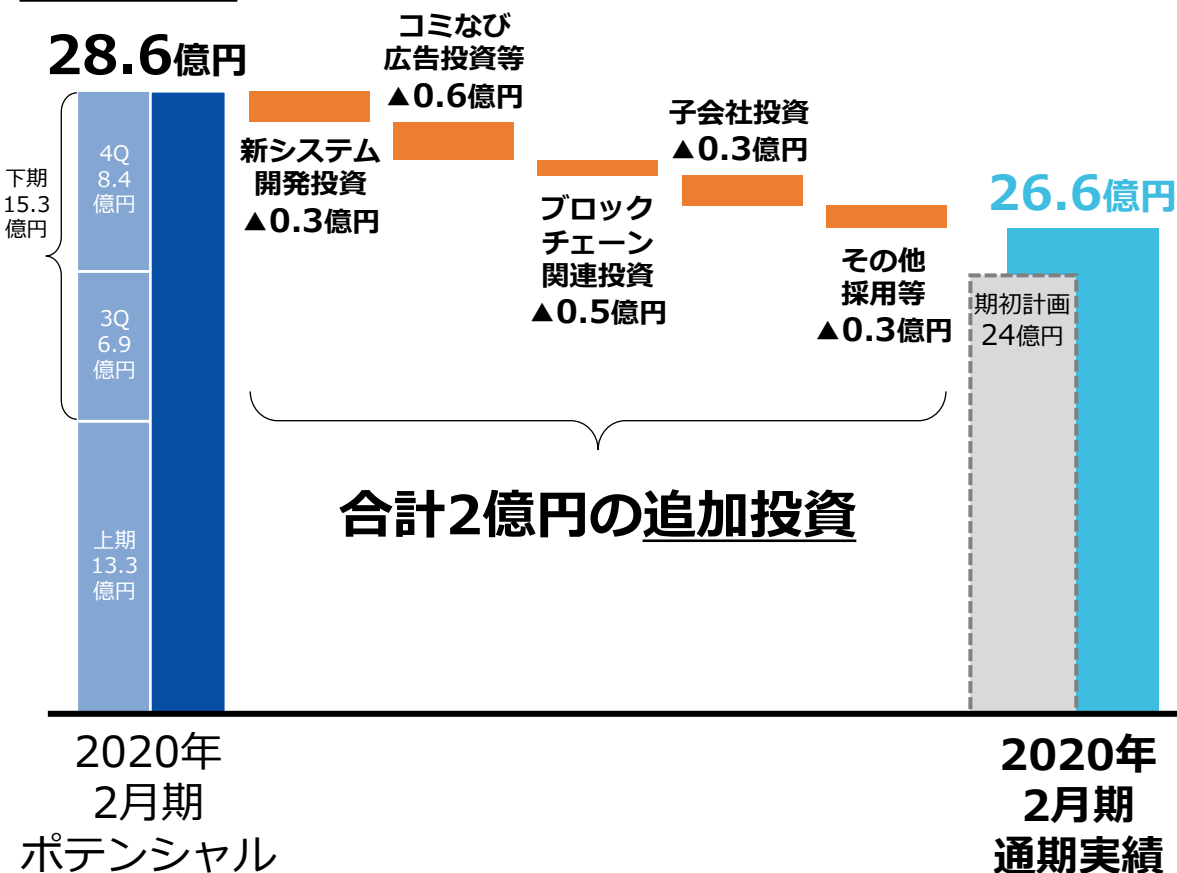


※ 2016年2月期・2017年2月期はメディアドゥ単体の数値を記載。

連結業績ハイライト⑧

下期に“攻めの投資”実行 さらなる事業拡大に向け**アクセラ**を踏む

EBITDA



新システム開発投資

- 追加開発により機能を拡充することで、電子書籍流通市場でのシェアを拡大

自社電子書店「コミなび」広告投資等

- マーケティングツールとしての機能強化など、出版社要望に対する柔軟な対応を実現

ブロックチェーン関連投資

- ブロックチェーン技術を活用し、新市場創出

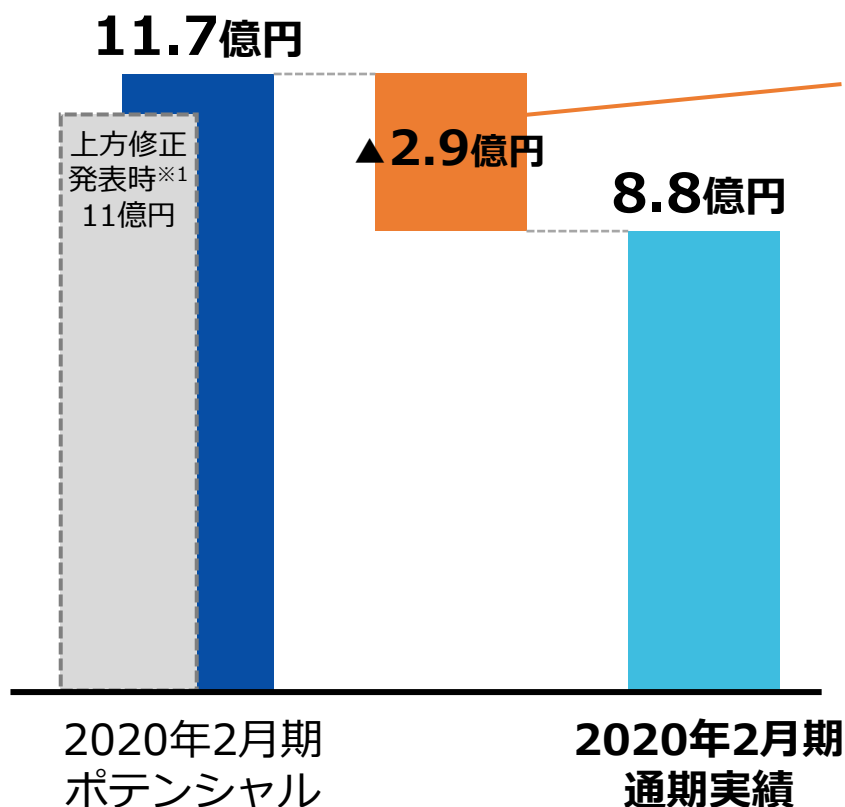
子会社投資

- フライヤー広告投資、インプリント事業開始による事業拡大

“攻めの投資”で成長を目指す

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い 一部保有株式の評価損を計上

当期純利益



保有株式のうち3銘柄（海外上場1社、未上場2社）
について、株価下落や事業への影響を考慮し、
評価損 合計2.9億円を計上

当期純利益は2020年1月に公表した着地見込に
対して超過する見込みであったが、保有株式の
減損により予想を下回って着地

※1 上方修正は2020年1月に2020年2月期第3四半期決算発表とともに公表

連結業績ハイライト⑩

2020年2月期 期末配当

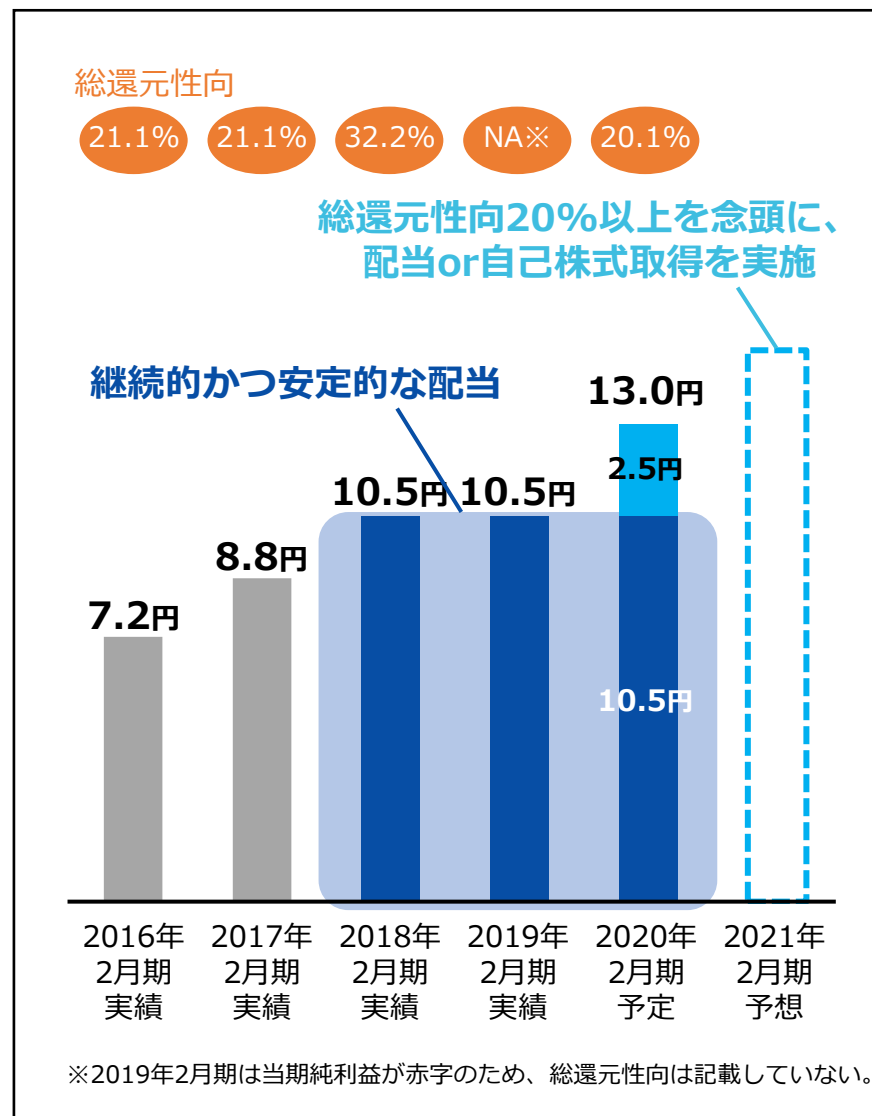
13円00銭

※2020年4月23日の取締役会にて決議予定



2021年2月期は、総還元性向20%以上を
念頭に置き、配当と自己株式の取得の配分は、
株価水準等に応じて判断

※総還元性向 = (配当金支払総額 + 自己株式取得総額)
/ 親会社株主に帰属する当期純利益



Business Strategy

2. 今後の成長方針

Mission : 著作物の健全なる創造サイクルの実現

Vision : ひとつでも多くのコンテンツを、
ひとりでも多くの人へ

具体的には

メディアアドウの **Position** を活かし、
人 × IT × 戦略によって電子書籍を世に広め、
出版市場自体を拡大する

今後の成長方針①

メディアドゥ最大の強み

Position

流通の中核機能

電子書籍を手掛ける出版社2,000社超、
大手を含むほぼ全ての電子書店150書店
と取引している独自のポジションを確立

圧倒的なシェア

流通総額1,000億円超を誇る、世界でも
Amazonに次ぐ第2位の電子書籍流通事業者

※ 2020年2月期

グローバルにおける存在感

W3C※のPublishing Business Groupの
共同議長にアジアから唯一就任

※ 電子書籍の国際標準規格を含む、インターネット技術の世界的標準化推進団体「World Wide Web Consortium」。当社は世界最大の出版社である米ペンギン・ランダムハウスなど欧米それぞれ1名ずつの代表者と並び、共同議長として選出

業界からの支援

4大出版社※を中心とした
出版業界の株主シェア 12%超

※ KADOKAWA・講談社・集英社・小学館（50音順）
保有比率は2020年2月末時点の発行済株式数を基に計算

Technology

高い開発能力

エンジニア100名体制を擁し、大規模トラフィックを支える電子書籍流通基盤から、ブロックチェーン等の先端技術を活用したシステム開発を全て自社で実現

取次からSaaSへ

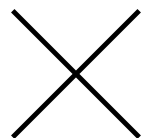
メディアドゥは電子書籍流通事業参入当初から、コスト面・利便性に優れたSaaS※を志向。新取次システムへの移行・統合により流通カロリーを削減し、さらなる業界発展に貢献

※ 「Software as a Service」の略

今後の成長方針③

メディアドゥ最大の強み

Position



Technology



Publishing Platformer

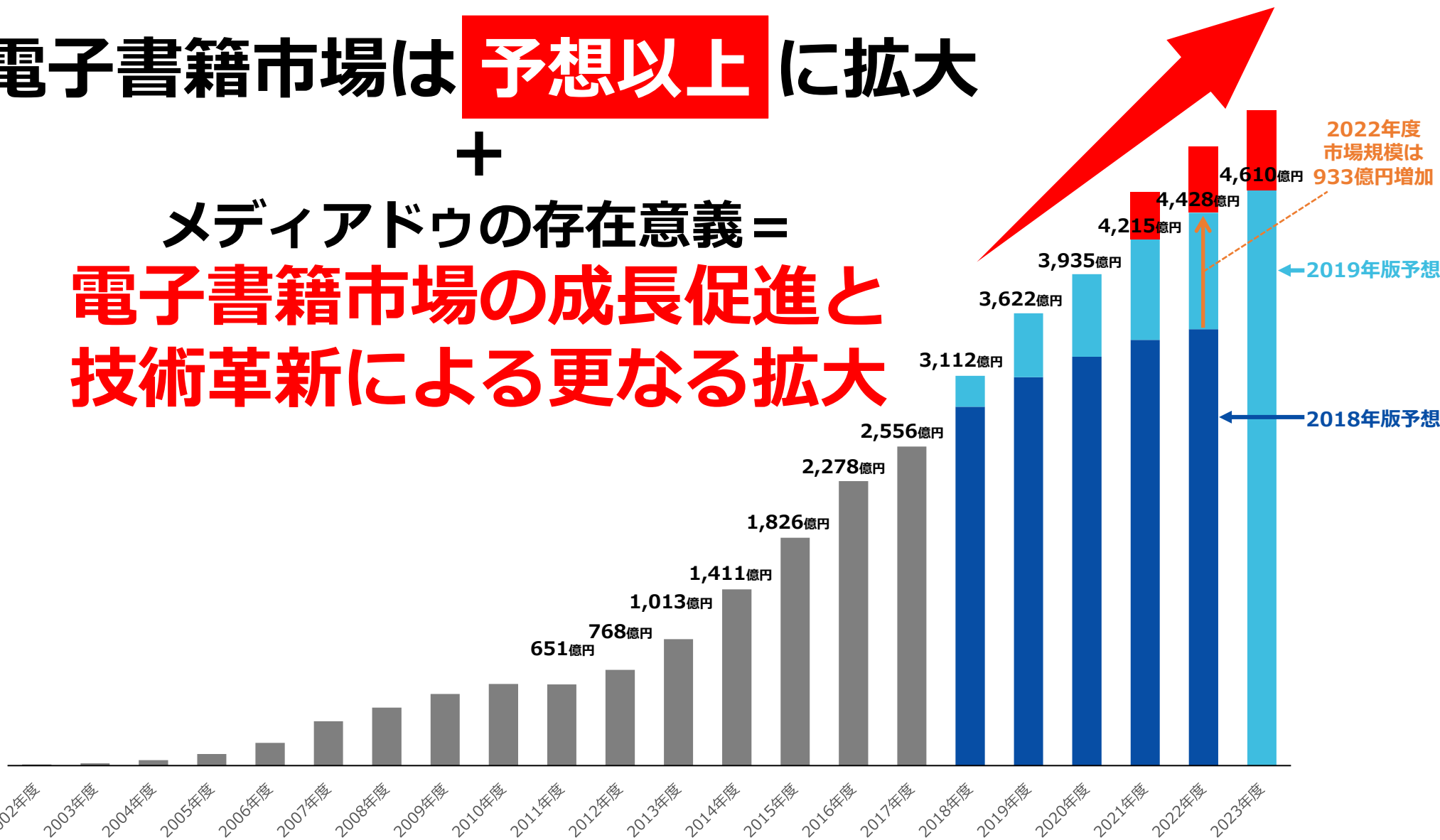
新時代のプラットフォームを創る

今後の成長方針④

電子書籍市場は **予想以上** に拡大

+

メディアドゥの存在意義 = 電子書籍市場の成長促進と 技術革新による更なる拡大



出所：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2019」

今後の成長方針⑤

出版市場の電子化余地はまだ大きく、マンガの次は文字ものの市場が拡大する

2019年のジャンル別出版市場規模

電子書籍割合

60.9% 前回から
+5.1ポイント上昇

5.1% 前回から
+1.1ポイント上昇

3.0%

電子

2,593億円

349億円

130億円

紙

1,665億円

米国・中国の出版市場における
電子書籍シェアは30~40%

6,530億円

4,165億円

コミック
4,258億円

文字もの（小説や教養書など）
6,879億円

雑誌
4,295億円

出所：出版科学研究所

※ 出版科学研究所が発表する紙出版物の統計では、コミック書籍の90%が「雑誌扱いコミック」として「雑誌」に分類されているため、上記では「雑誌扱いコミック書籍」を書籍として集計し直した値を記載。また、コミック売上には紙・電子とも「コミック書籍」のみ計上、「コミック雑誌」は雑誌に含めている。

電子書籍 流通事業

Legacyを 作る

- ✓ システム統合は順調
- ✓ 新システム機能改良
- ✓ 自社書店規模拡大

Legacyを 創りに行く

- ✓ ブロックチェーン活用
- ✓ 不便・不安を解消する
新プラットフォーム

その他事業

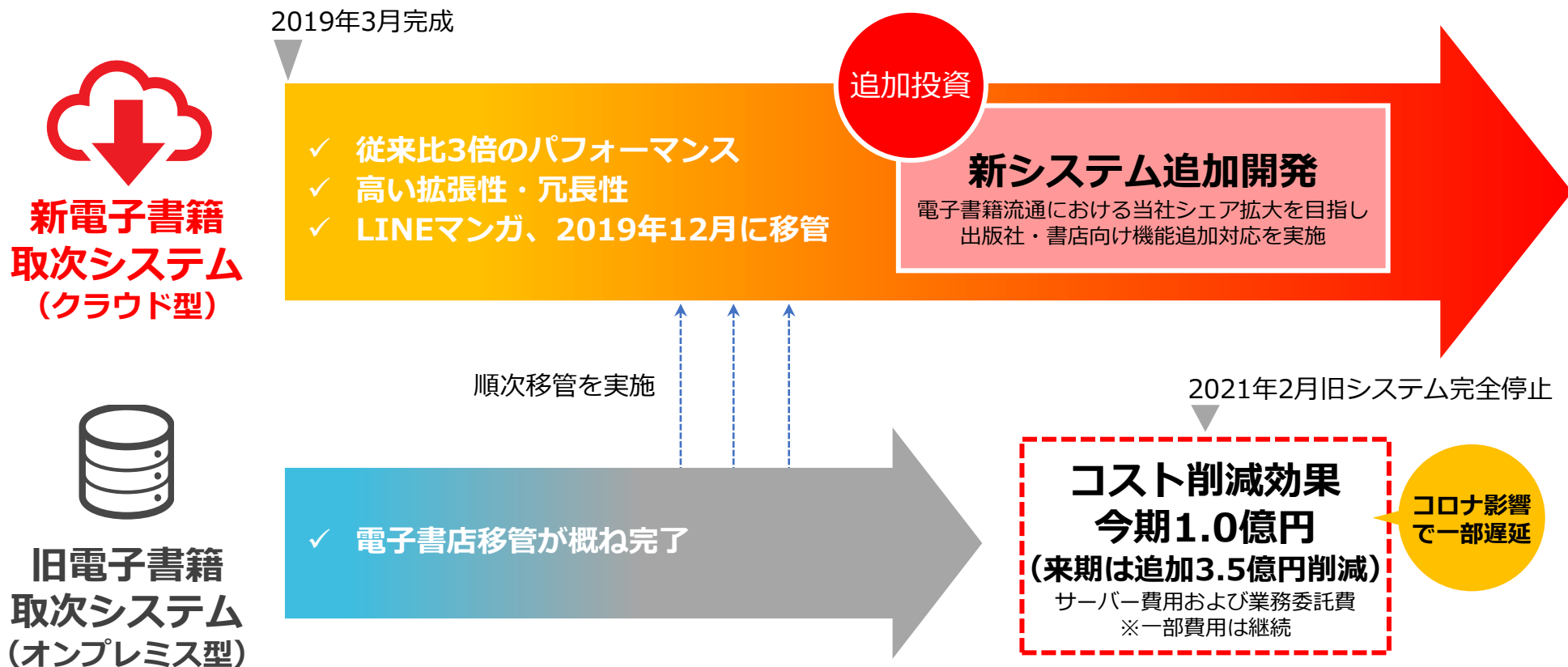
事業拡大に向けた 積極的な投資実行

- ✓ 一層の事業拡大に向けた先行投資

電子書籍流通事業

Legacyを作る

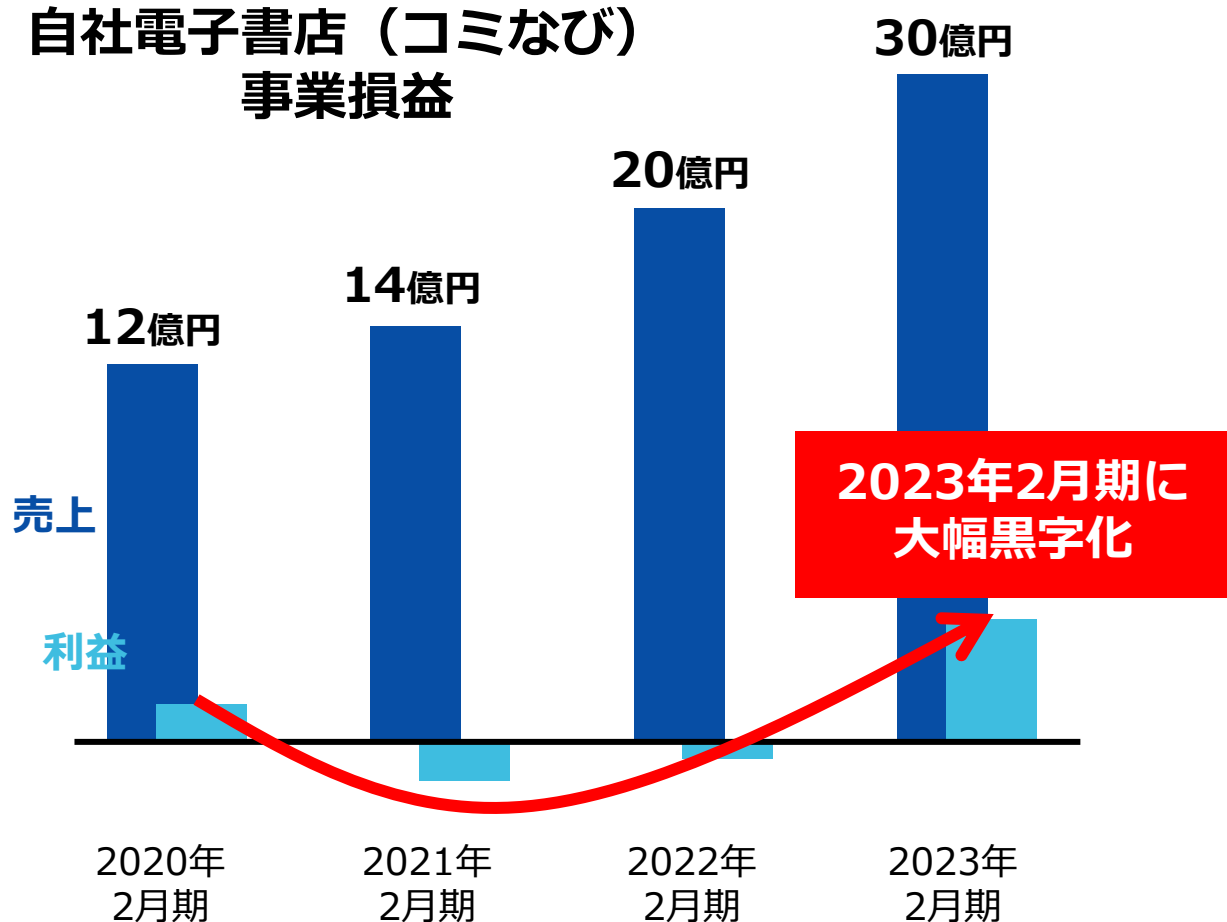
新システムへの移管はほぼ完了 今後は業務統合効果が発現



今後の成長方針⑨

自社電子書店「コミなび」は規模拡大を図り 3年後に大幅な黒字化を目指す

自社電子書店（コミなび）
事業損益



達成のための取り組み

① 広告投資等による
ユーザーの拡大
(2023年2月に月商2.5億円規模)

② リニューアルによる
機能改善／拡充

幅広いクライアントニーズに
応ずる大規模システムに改修し
新規システム提供先を拡充

新型コロナウイルス感染症影響拡大も 電子図書館事業の貸出数は増加

電子図書館事業の概況

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う学校休校・図書館休館により、2020年3月の貸出数が増加
- 外出自粛を受け、児童向け電子書籍の追加、SNSによる電子図書館の案内等を実施する図書館が増加



© NEW日本の歴史1 国の成り立ち/
大石学・高野和弘・姫川明・榎本事務所/
学研プラス

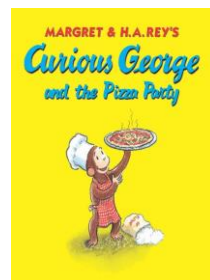
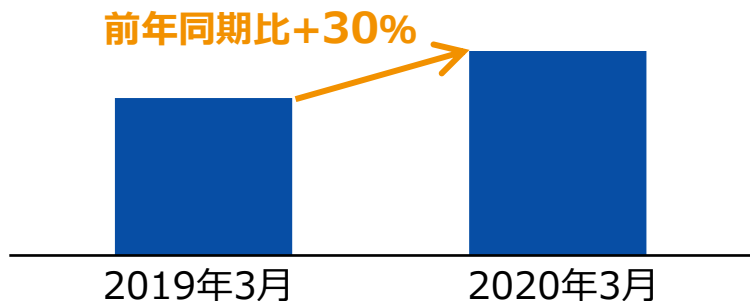


© ポポくんのおんがくかい/
accototo・ふくだとしお+あきこ/
PHP研究所



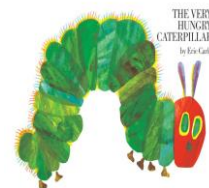
© あるかしら書店/
ヨシタケシンスケ/
ポプラ社

電子図書館事業貸出数



英文
音声

© Curious George and the Pizza Party/
H. A. Rey, Margret Rey/
Houghton Mifflin Harcourt Trade and Reference



英文
音声

© The Very Hungry Caterpillar/
Eric Carle/Penguin Group (USA), Inc.

→児童向け・英語教育関連の電子書籍に対するニーズが増加

電子書籍流通事業

Legacyを創りに行く

メディアドゥがブロックチェーン技術を用いて実現したい世界とは？

現在のデジタルコンテンツサービス
= 中央サーバープラットフォーム

音楽 本 映像 その他

コンテンツ
販売モデル
(制限なし)

サブスクリプションモデル

Spotify, Kindle, YouTube, Netflixなど

メディアドゥが提案する
もう一つのコンテンツサービス
= ブロックチェーンプラットフォーム

音楽 本 映像

アセットモデル

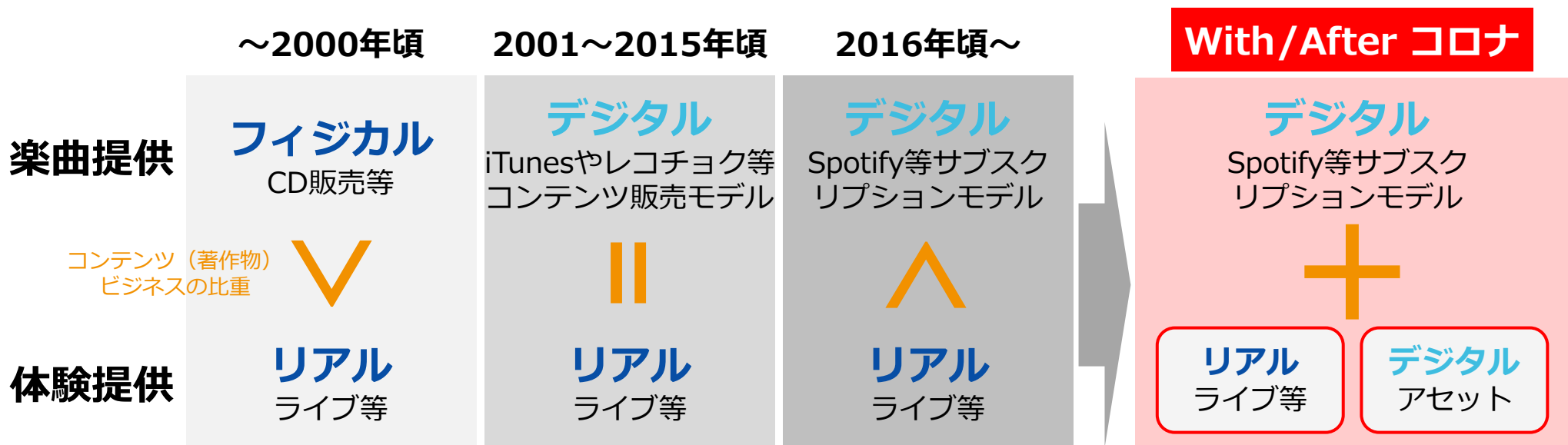


→ ブロックチェーン基盤の新しいコンテンツ配信モデルは既存モデルと共存する

今後の成長方針⑬

With/After コロナにおいてコンテンツマネタイズの課題が発現することは必至

例) 音楽業界におけるコンテンツ（著作物）ビジネスの変遷



楽曲提供がサブスクリプションモデルに移行することで、
コンテンツマネタイズは「リアル」に移行

→コロナウィルス出現によりリアルでの収益化が困難に

コロナ後の世界では
デジタル上で今までにない
価値・収益を生み出す
「仕組み」が不可欠

メディアドゥが描く 新たなデジタルコンテンツの在り方

Digital Content Asset

DCA



“個数”の概念を持ち、プレミアムを実現する
デジタルコンテンツ

ブロックチェーン技術は コンテンツ業界に多くの変革をもたらす

ブロックチェーンがもつ特徴

安全性の高さ（改竄が困難）

透明性（情報共有）

トレーサビリティ（追跡可能）

安価な運用費用（高速処理）



著作権管理

決済管理

トレース
(取引履歴管理)

取引効率化・
自動化

ユーザー保護
(利用権利管理)

ロイヤルティ
の可視化

著作者向け機能強化

取引機能強化

ユーザー向け機能強化

ブロックチェーンを活用した新たなコンテンツ配信サービスを3Qリリース



長期的な安定運用やビジネスの多様性・柔軟性の観点からスタンダードになっている

Amazon Managed Blockchainを採用

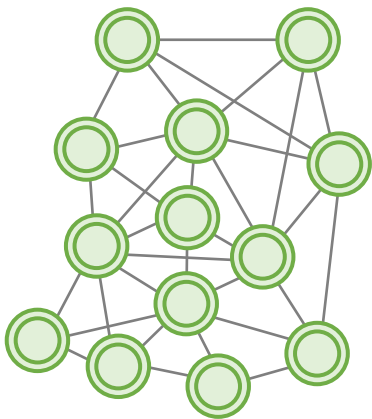
- ✓ 企業が利用するために設計された最適なシステム
- ✓ 複数企業を横断する様々なビジネススタイルに柔軟に対応可能

メディアドゥは速度と信頼性を考慮し コンソーシアム型を採用

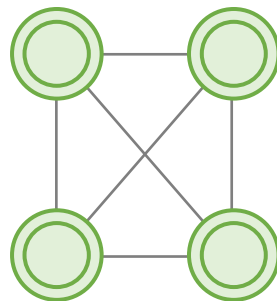
● ノード (サーバ) ○ 一般利用者

MediaDo
Blockchain Platform

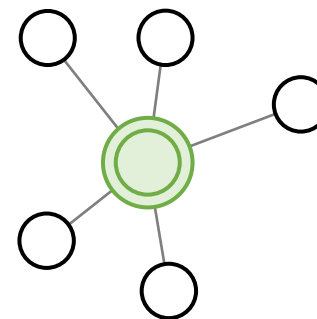
パブリックチェーン



コンソーシアムチェーン



プライベートチェーン



非中央集権

スピード遅い

中央集権

スピード速い

年間兆円規模の流通量をカバーできる 処理速度を実現

サービスごとの処理可能取引数

tps = transactions per second: トランザクション数/秒

	Bitcoin	Ethereum	Ripple	Hyperledger Fabric	MediaDo Blockchain Platform	Visa
	パブリックチェーン		コンソーシアムチェーン			中央サーバーモデル
1秒	8 tps	8 tps	1,500 tps	2,700 tps	5,555 tps	65,000 tps+
1時間	28,800	28,800	540 万	972万	2,000万	2.3億
1日	69.1万	69.1万	1.3億	2.3億	4.8億	56億

→仮にトランザクション当たり平均流通単価を
10円とすると、年間1.7兆円の流通量となる

デジタルコンテンツの新たな流通の 仕組みは海外・国内の両輪で進める

海外市場

MyAnimeList + 事業パートナー

MyAnimeListの持つ月間1.4億PV/1,100万MAUの
ユーザー基盤やデータを活用したサービスを開発

デジタルコンテンツアセット購入の実証実験

日本コンテンツのグローバル展開 (DtoC)

跋扈する海賊版サイトへの解決策

→海外展開する複数の国内出版社
が協力を表明

国内市場

音楽、映像、電子書籍など
幅広いデジタルコンテンツの
新市場を創出

デジタルコンテンツの
プレミアム市場創出に向けた
仕組みを構築

その他事業

事業拡大に向けた
積極的な投資実行

周辺事業は事業拡大に向けた投資強化

メディア運営



ビジネス書の要約サービス

拡張サービス

著名人の独自コンテンツ、オンライン読書会、学びを深めるコミュニティ“flier book labo”を開始

拡張機能

インプットだけでなくアウトプットを重視、「学びに特化」した新たなSNS機能を搭載

→会員数は50万人を突破
広告展開を強化し、2023年2月期までに100万人達成を目指す

MyAnimeList

世界最大級のアニメ・マンガのコミュニティサイト

マネタイズ手法の多様化

モバイル対策実施しグロース図るとともに広告売上増加やコンテンツ売上等を拡充

メディアドウトとの連携強化

ブロックチェーン事業での協業に加え、IPの海外展開を目指す企業を企画/開発/運用面で支援

→MyAnimeListのユーザー資産とブランド力を活用し既存ビジネスとの連携を加速する

インプリント事業

SPP=パブリッシング機能

- ・マーケティング（IP・顧客分析/マーケット分析等）
- ・システム（売上管理/在庫管理/制作管理等）
- ・バックオフィス（人事/経理/総務/法務等）

JIVE株式会社

インプリントレーベル
(ネクストFレーベル編集部)

さらなる事業拡大に向けた取り組み

- ①DXに資する出版社業務システムの創出
- ②更なるインプリントレーベルの拡充
- ③IPの映像/音声等他メディア展開

FY2021 Forecast

3. 2021年2月期計画

電子書籍市場の力強い成長に伴い売上増加 アクセラを踏む投資実行により利益は微増

連結

売上高	770億円	(前年同期比+17%)
営業利益	22億円	(前年同期比+19%)
EBITDA	30億円	(前年同期比+13%)
当期純利益	11億円	(前年同期比+24%)

うち電子書籍流通事業

売上高	756億円	(前年同期比+17%)
営業利益	26億円	(前年同期比+40%)

売上構成比
98.2%

2021年2月期計画②

Legacy
を作る

- 新システムへの統合／追加機能開発
- メディアドゥテック徳島への業務移管によるコスト削減
- 自社電子書店「コミなび」の事業拡大

Legacyを
創りに行く

- With/Afterコロナに向け、新たなコンテンツ流通の仕組み「Digital Content Asset」を提唱
- デジタルコンテンツ流通の新たな仕組みを3Qリリース

事業拡大に向けた
投資実行

- MyAnimeList、フライヤー等のメディア事業拡大に向けた投資
- インプリント（自社出版）体制整備／事業拡大に向けた投資

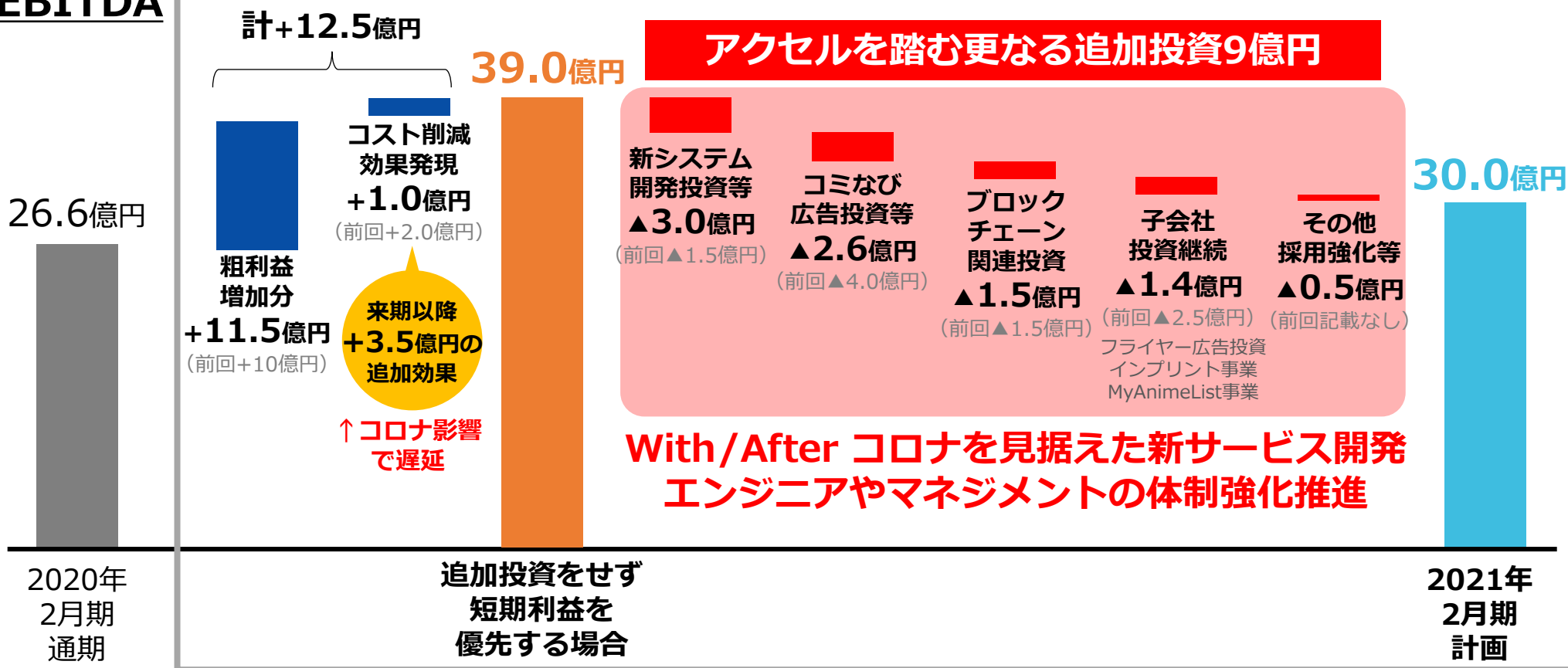


新型コロナウイルス感染症影響拡大に伴うユーザー消費行動の変化

→エンジニアやマネジメントの体制強化を推進

With / After コロナを見据えてサービス開発 やマネジメントの体制強化を推進

EBITDA



※ 上記グラフ内における前回公表数値とは、2020年2月期第3四半期決算説明会資料にて記載した金額を指す。

2021年2月期計画④

2020年6月以降の新経営体制

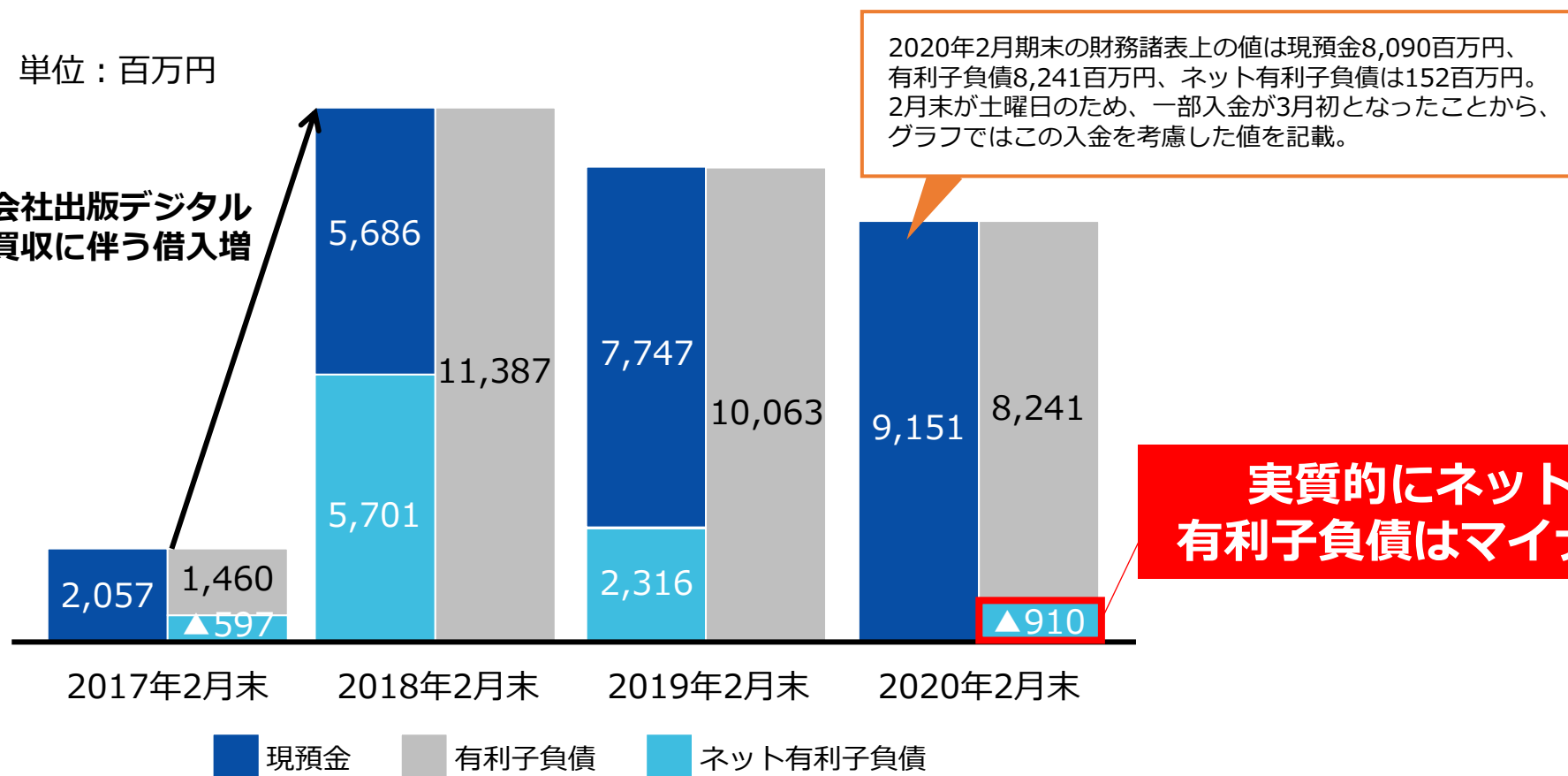
氏名	現役職名	新役職名
藤田 恭嗣	代表取締役社長 CEO	代表取締役社長 CEO
新名 新	取締役副社長 COO	取締役副社長 COO
鈴木 克征	取締役	取締役 CAO
溝口 敦	執行役員	取締役 CBDO IPマーケティング企画室長
山田 亮	執行役員	執行役員 CFO 財務部長
花村 佳代子	—	執行役員 CEDO 電子書籍取次事業本部長 <small>※Chief Ebook Distribution Officer</small>
泉 純一郎	—	執行役員 CTO CTO室長
千原 陽一	—	執行役員 CHRO 人事部長
苅田 明史	—	執行役員 CSO 経営企画室長

→役割権限を明確化、経営と意思決定スピードの向上を図る

実質的なネット有利子負債は解消し 財務健全性が改善

単位：百万円

株式会社出版デジタル
機構買収に伴う借入増



2021年2月期計画⑥

連結業績予想

	2020年2月期	2021年2月期 (中計3年目)		2023年2月期 (中計5年目)
	実績	計画	前年比	目標
売上高	658億円	770億円	+112億円	900億円
営業利益	18.5億円	22億円	+3.5億円	50億円
経常利益	17.6億円	21億円	+3.4億円	—
当期純利益	8.8億円	11億円	+2.2億円	—
EBITDA	26.6億円	30億円	+3.4億円	60億円

中計5年目の目標値は2020年1月発表数値から据え置き
但し、ブロックチェーン等の投資効果は現時点で未計上

※ 上記は現在弊社が採用している会計基準に基づいた値を記載しております。

Appendix

4. 參考資料

2020年2月期通期実績 (P/L)

(単位：百万円)	2019年2月期								2020年2月期							
	1Q		2Q		3Q		4Q		1Q		2Q		3Q		4Q	
売上高	10,708		12,510		12,956		14,393		15,454		16,427		16,085		17,892	
電子書籍流通事業	10,626	99.2%	12,416	99.3%	12,845	99.1%	14,275	99.2%	15,127	97.9%	16,080	97.9%	15,687	97.5%	17,633	98.6%
その他事業	81	0.8%	93	0.7%	110	0.9%	117	0.8%	※1 326	2.1%	346	2.1%	397	2.5%	※4 259	1.4%
売上原価、販売管理費	10,521 98.3%		12,160 97.2%		12,533 96.7%		13,884 96.5%		15,019 97.2%		15,933 97.0%		15,648 97.3%		17,404 97.3%	
著作権・その他原価	9,064	84.6%	10,718	85.7%	11,084	85.5%	12,357	85.9%	13,292	86.0%	14,131	86.0%	13,867	86.2%	15,579	87.1%
手数料等	49	0.5%	50	0.4%	49	0.4%	49	0.3%	49	0.3%	53	0.3%	47	0.3%	57	0.3%
広告宣伝費	122	1.1%	125	1.0%	123	1.0%	152	1.1%	130	0.8%	144	0.9%	162	1.0%	191	1.1%
人件費等	690	6.4%	630	5.0%	726	5.6%	683	4.7%	※1 895	5.8%	945	5.8%	852	5.3%	※4 768	4.3%
償却費等	225	2.1%	259	2.1%	219	1.7%	215	1.5%	201	1.3%	206	1.3%	201	1.3%	198	1.1%
その他	370	3.5%	376	3.0%	331	2.6%	425	3.0%	449	2.9%	452	2.8%	516	3.2%	610	3.4%
営業利益	186 1.7%		349 2.8%		422 3.3%		509 3.5%		434 2.8%		493 3.0%		437 2.7%		487 2.7%	
経常利益	189	1.8%	344	2.8%	410	3.2%	548	3.8%	456	3.0%	※2 395	2.4%	391	2.4%	518	2.9%
親会社に帰属する当期純利益	62	0.6%	-754	-6.0%	203	1.6%	-754	-5.2%	265	1.7%	218	1.3%	※3 404	2.5%	-3	0.0%
EBITDA	412 3.9%		609 4.9%		644 5.0%		722 5.0%		636 4.1%		699 4.3%		638 4.0%		686 3.8%	

※1 「その他事業」及び「人件費等」の増加要因は、2019年3月より㈱徳島データサービスを連結対象に加えた影響（2019年2月期4Qとの差異は各々+2.0億円、+1.6億円）。

※2 投資先であるCreatubbles Pte. Ltd.に対する貸倒引当金として0.9億円の営業外費用を計上。

※3 Amazia社株式売却益として2.9億円の特別利益を計上。

※4 ※1記載の㈱徳島データサービスを2019年10月末に売却した影響。このため「著作権・その他原価」の構成比率は上昇しているが、電子書籍流通事業に対する本科目の構成比は前四半期と同水準。

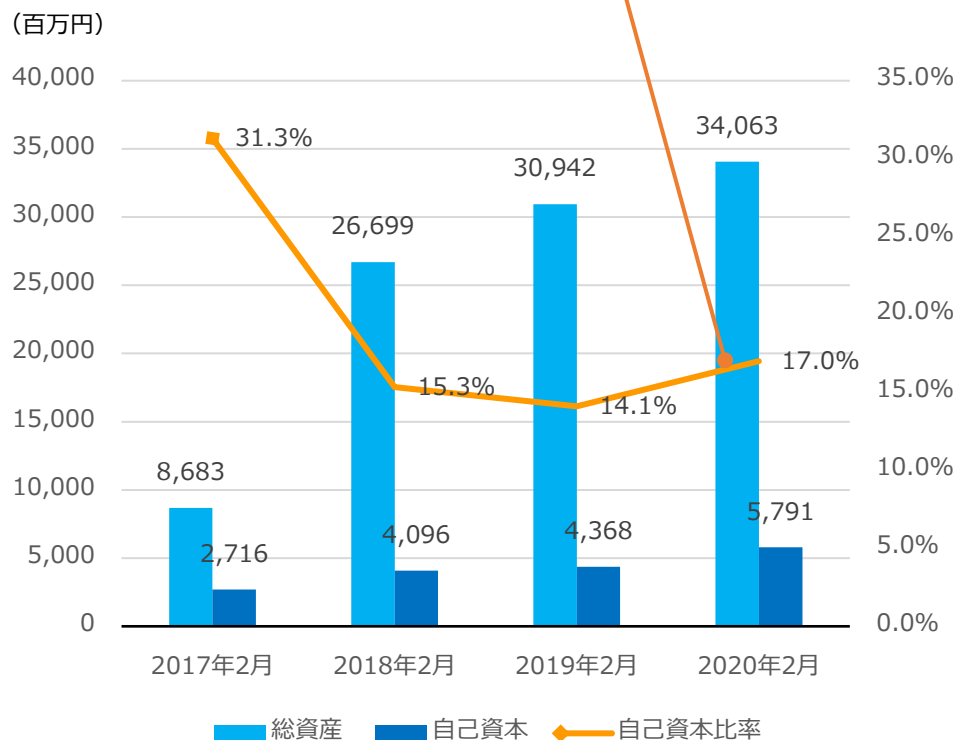
2020年2月期通期実績 (B/S)

(単位：百万円)	2020年2月期	2020年2月期	前四半期増減	主たる変動要因、他
	3Q	4Q	(金額ベース)	
流動資産	23,031	25,094	2,063	
現金及び預金	8,309	8,089	-220	
売掛金	13,908	16,022	2,114	売上増加と連動した増加
その他	814	983	169	
固定資産	9,194	8,967	-227	
有形固定資産	420	341	-78	
ソフトウェア	319	299	-20	
のれん	5,532	5,416	-116	
投資有価証券	2,799	2,958	159	評価替えによる増加
資産合計	32,226	34,062	1,836	
流動負債	19,610	21,396	1,785	
買掛金	16,341	18,247	1,905	売上増加と連動した増加
1年内返済予定の長期借入金	1,686	1,662	-23	
固定負債合計	7,075	6,828	-247	
長期借入金	6,885	6,578	-306	返済による減少
負債合計	26,686	28,224	1,538	
株主資本合計	5,345	5,342	-3	
資本金	1,899	1,899	-	
資本剰余金	2,778	2,778	-	
利益剰余金	668	665	-3	
その他包括利益累計額合計	144	449	304	
新株予約権	48	48	0	
非支配株主持分	0	-1	-2	
純資産の合計	5,539	5,838	298	
負債・純資産合計	32,226	34,062	1,836	

財務数値は改善傾向

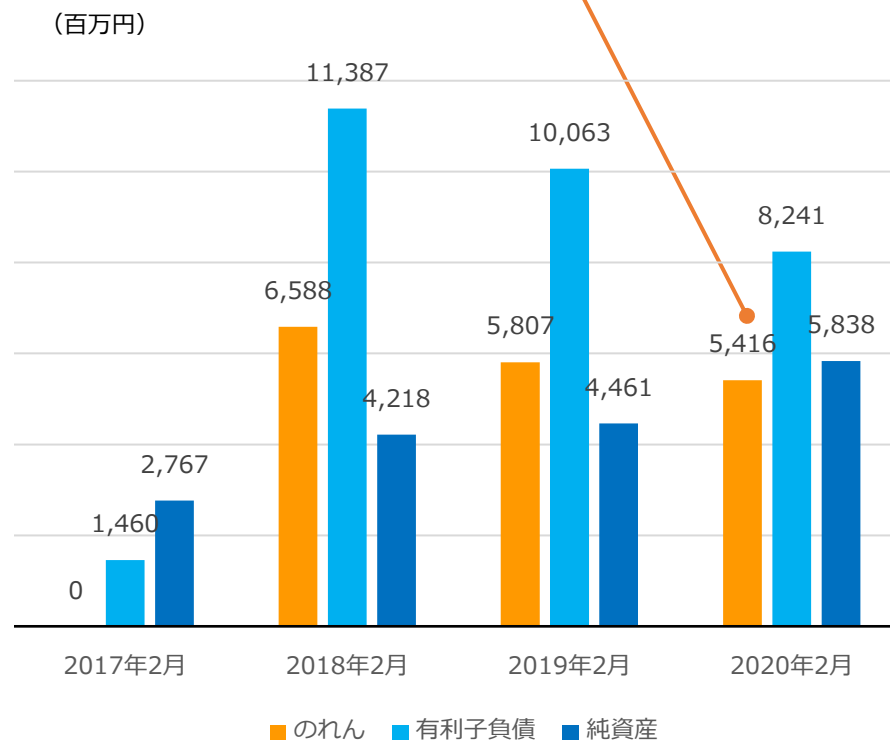
自己資本比率推移

自己資本比率は改善傾向



主要B/S指標推移

純資産がのれん残高を上回る



メディアドゥは「電子書籍取次最大手」



メディアドゥの実績

出版社
からの
信頼

- 出版社口座数**2,000**以上
→うち非マンガ出版社**1,530**社
- 主要出版社※1の**すべて**
- 電子書籍を提供する出版社の**99%以上**※2

書店から
の信頼

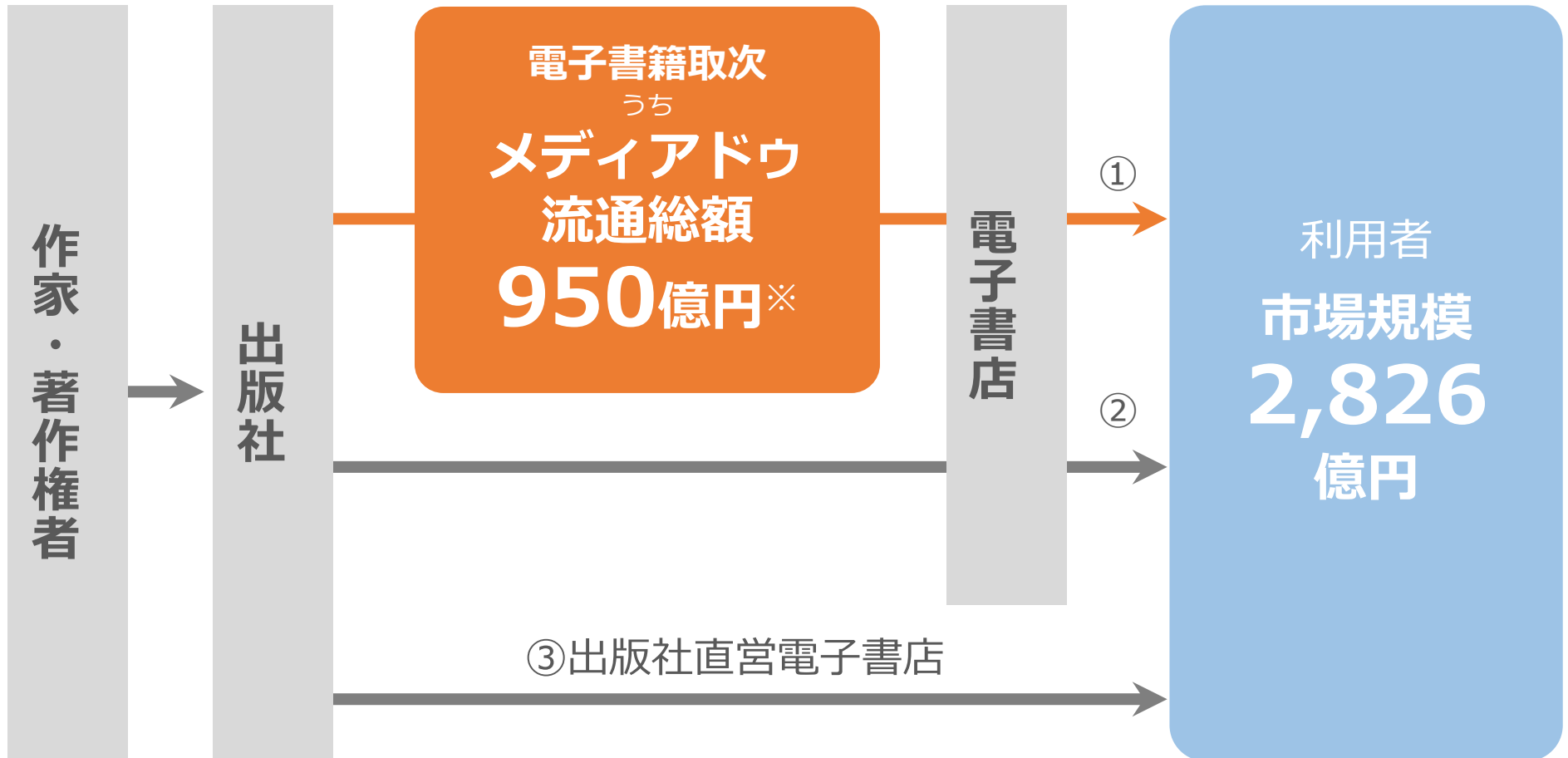
- 取引書店数**150**店以上
- ユーザー利用率上位20書店※3の**すべて**

※1 日本書籍出版協会に加盟している出版社（2019年11月1日現在、411社）のうち、オーディオブックなど非出版系の出版社を除いた企業を主要出版社と定義

※2 メディアドゥ調べ。なお、売上が少額、または、定期的な刊行物がない出版社等を除く

※3 インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2019」における「購入・課金したことのある電子書籍ストア Top20」、出版社直営書店は除く

電子書籍流通の34%はメディアドゥ経由

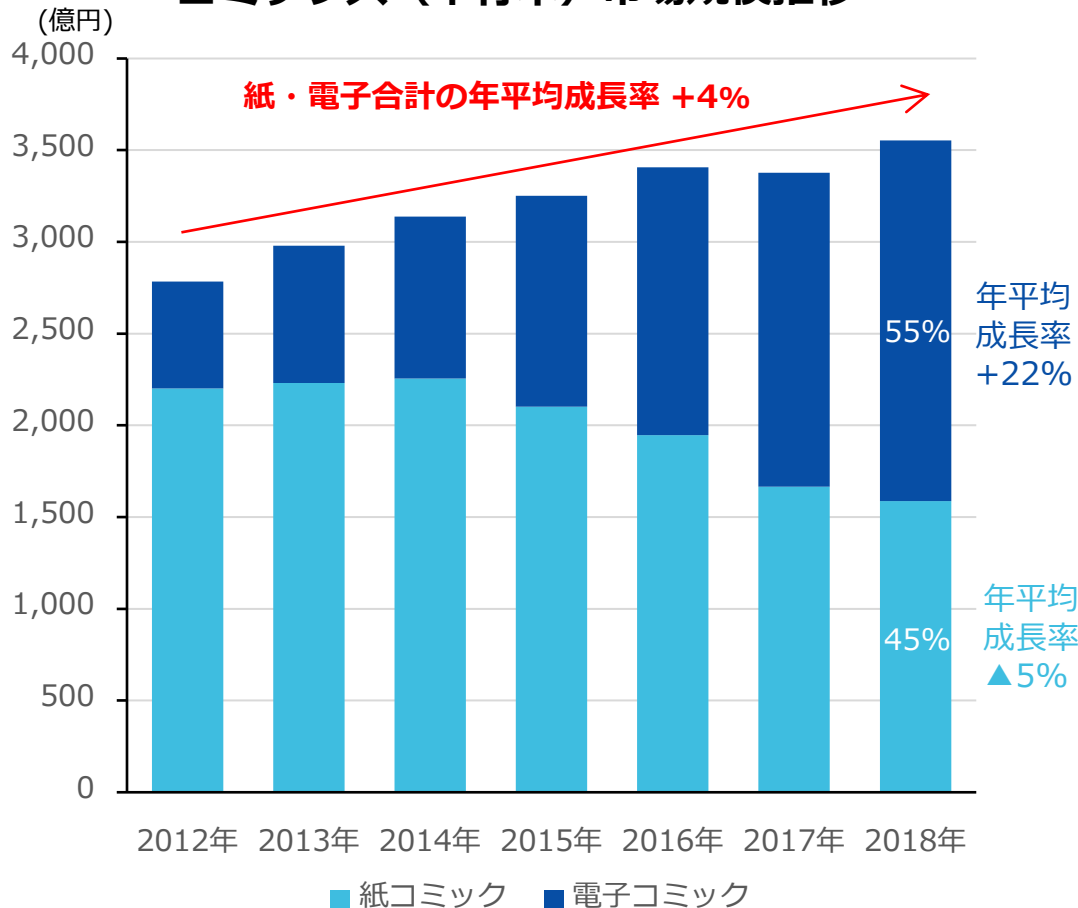


出所：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2019」
※ 当社計算に基づく。

市場環境分析①

マンガはデジタルシフトで市場規模が拡大

コミックス（単行本）市場規模推移



いつでもどこでも買えるデジタルならではのタッチポイントの多さが寄与し、電子コミックは紙コミック市場を超過

デジタルへの露出がカタログ効果となって紙コミック売上の減少も歯止め傾向

カタログ効果 …電子コンテンツを読むことがきっかけとして、紙・電子のコンテンツが売れるようになる効果

電子書籍の流通増加は出版市場全体の活性化に直結

出所：インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2019」、「出版指標年報」
※ 紙コミック市場は単行本市場のみ記載。

中期経営計画骨子①

フェーズ 1

フェーズ 2

フェーズ 3

競争
(2002-2016年)

効率化
(2016-2022年)

合従連衡
(2022年- ?)

2019年2月期
計画1年目

2020年2月期
計画2年目

2021年2月期
計画3年目

2022年2月期
計画4年目

2023年2月期
計画5年目

2018年7月 現・中計発表

中期経営方針および目標

中期経営方針

電子書籍取次事業から
“Publishing Platformer”への転換

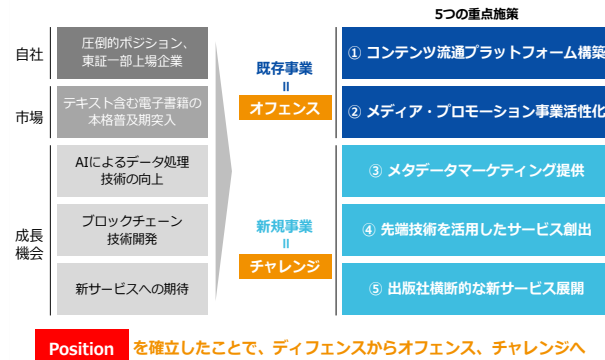
目標

	2018年2月期 実績	2021年2月期 計画	2023年2月期 目標
流通総額※	710億円	1,050億円	1,300億円
連結売上高	372億円	630億円	800億円
連結EBITDA	17.7億円	35億円	60億円
EPS	32.56円	95円	135円

※ 流通総額 = 取引先の電子書籍ストアを通じて利用料が支払う上代価格の合計

Copyright © MEDIA DO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved. - <https://mediado.jp>

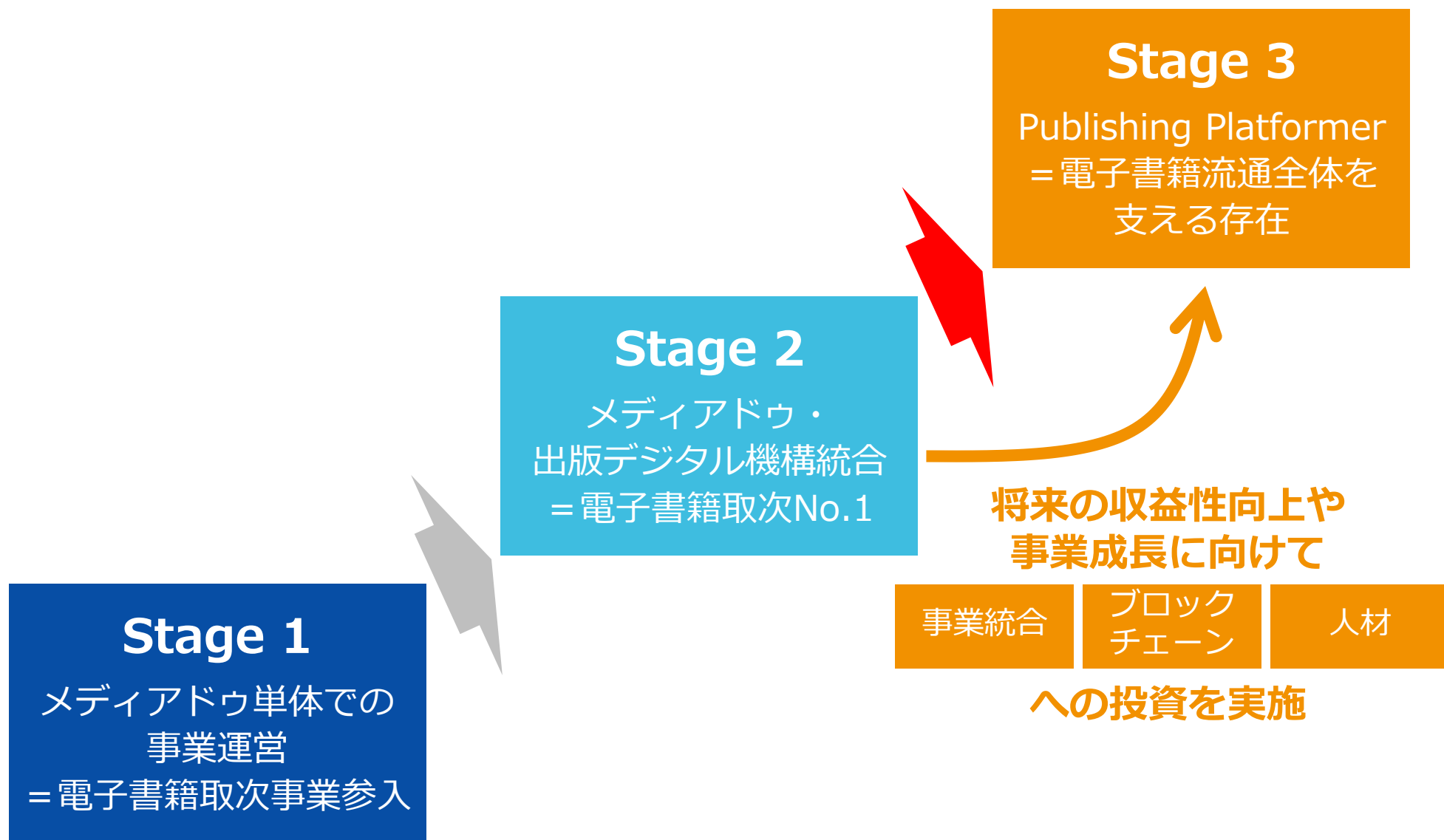
メディアドゥグループが取り組む5つの重点施策



Copyright © MEDIA DO HOLDINGS Co., Ltd. All Rights Reserved. - <https://mediado.jp>

基幹システム統合、
戦略投資により
合従連衡フェーズに
備えた基盤整備を実施

中期経営計画骨子②



中期経営計画骨子③

当初計画よりも投資期間を延長、 アクセルを踏み、一層の事業拡大を目指す

重点施策

計画1年目 19年2月期 2年目 20年2月期 3年目 21年2月期 4年目 22年2月期 5年目 23年2月期

Legacy を作る

新システム移管による
コスト削減

新システム開発
2020年4月までに移管完了

コスト削減効果発現

新システム機能改善

Legacyを 創りに行く

ブロックチェーンを用いた
新たな流通プラットフォーム

POC

基盤開発

2020年3Qサービス開始

事業拡大に 向けた 投資実行

グループ会社収益化 (My
AnimeList、フライヤー等)

更なる事業拡大に向けた
広告/体制強化等の投資継続

収益化

インプリント事業の成長

2020年2月期3Qより
事業開始

パブリッシング機能強化
インプリントレーベル拡充

本業順調の好機をとらえ
投資期間を延長

当初計画における投資期間

新計画における投資期間

ミッション・ビジョンを軸にしたESGを推進

テーマ

重点課題

関連するSDGs

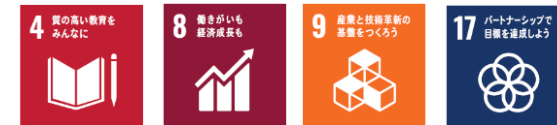
環境
Environment

- 当社グループが事業活動において利用する資源・エネルギーの効率化
- 電子書籍市場の利用拡大による紙使用量削減と物流にかかるエネルギー消費量の抑制



社会
Social

- 企業理念に基づく事業活動の遂行（著作物の公正利用と頒布）
- 著作者、出版社、ユーザー（読者）が安心・信頼して利用できるシステム基盤の構築と強化
- 地方創生と地域社会活性化



ガバナンス
Governance

- 様々なステークホルダーとの対話を通じたコーポレート・ガバナンスの強化
- コンプライアンス強化
- リスクマネジメント強化



海賊版サイト対策確立へ業界横断で協力

違法サイトの歴史

P2Pサービスを介した違法コンテンツが流通

動画共有サイトの違法コンテンツが問題に

リーチサイト等侵害の形が多様化

海賊版サイトによる大規模被害

はるか夢の址
(2015年～2017年10月)

首謀者に対し懲役2年4ヶ月～3年6ヶ月
の実刑判決と損害賠償約1億6000万円

FreeBooks
(2017年1月～5月)

漫画村
(2017年5月～2018年4月)

著作権法違反の疑いで運営グループの
メンバーを逮捕

星の口ミ
(2019年5月～9月)

2004年

2007年

2011年

2016年

業界・政府による対策

コンテンツ海外流通促進機構 (CODA)
設立 (2002年)

違法ダウンロードの刑事罰化 (2012年)

電子書籍に対応した著作権整備 (2013年)

リーチサイトへの対応審議開始 (2016年)

「STOP! 海賊版」キャンペーン展開、
「ABJマーク※」利用促進 (2018年)

ISPや通信業界と連携し、幅広い海賊版
サイト閲覧禁止策を検討 (2019年)

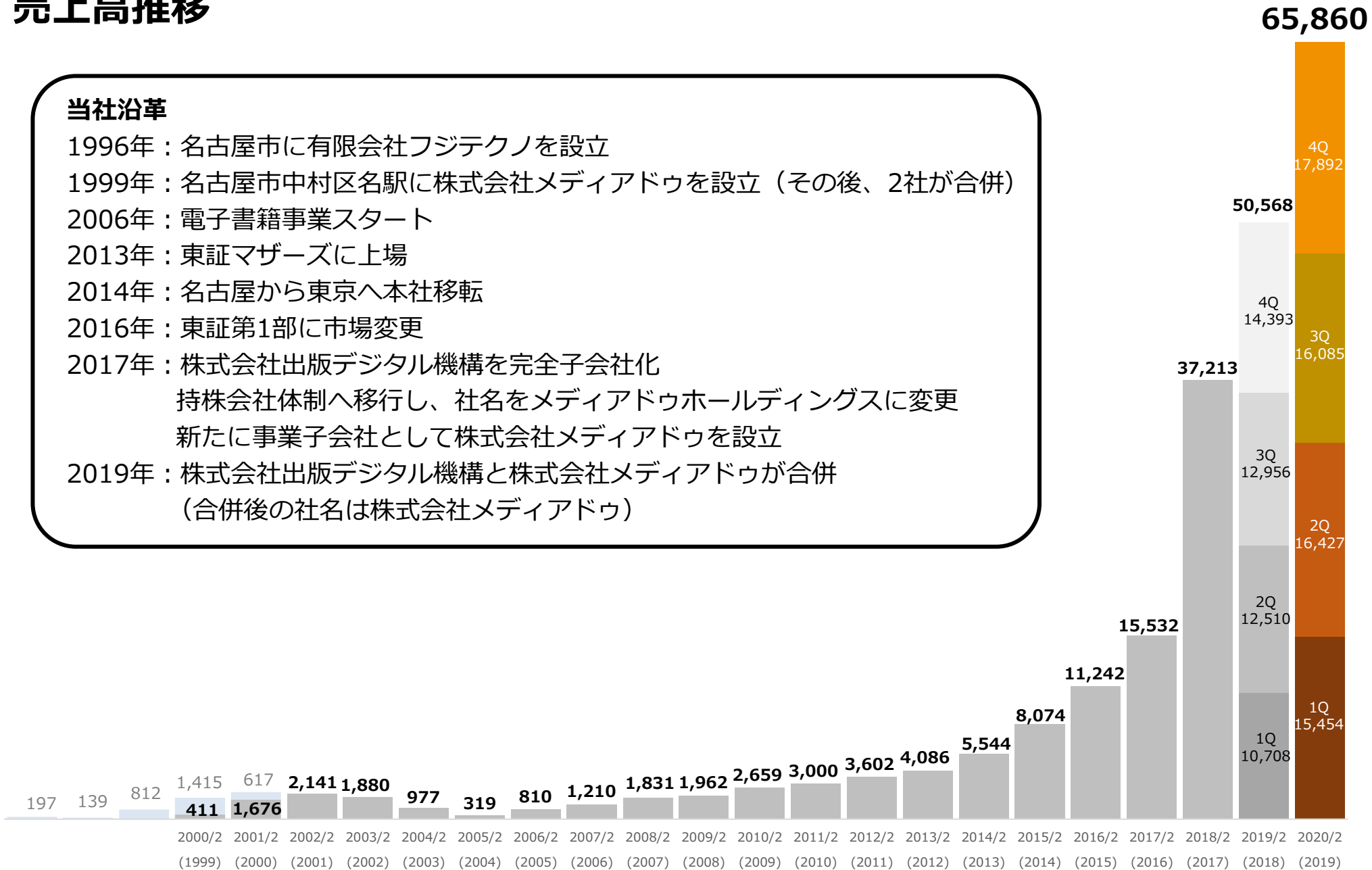
**→官民協力・業界横断による
海賊版サイト根絶を目指す**

※「Authorized Books of Japan」の略で、著作権者からコンテンツ使用許諾を得た正規版配信サービスであることを示す商標。

売上高推移

当社沿革

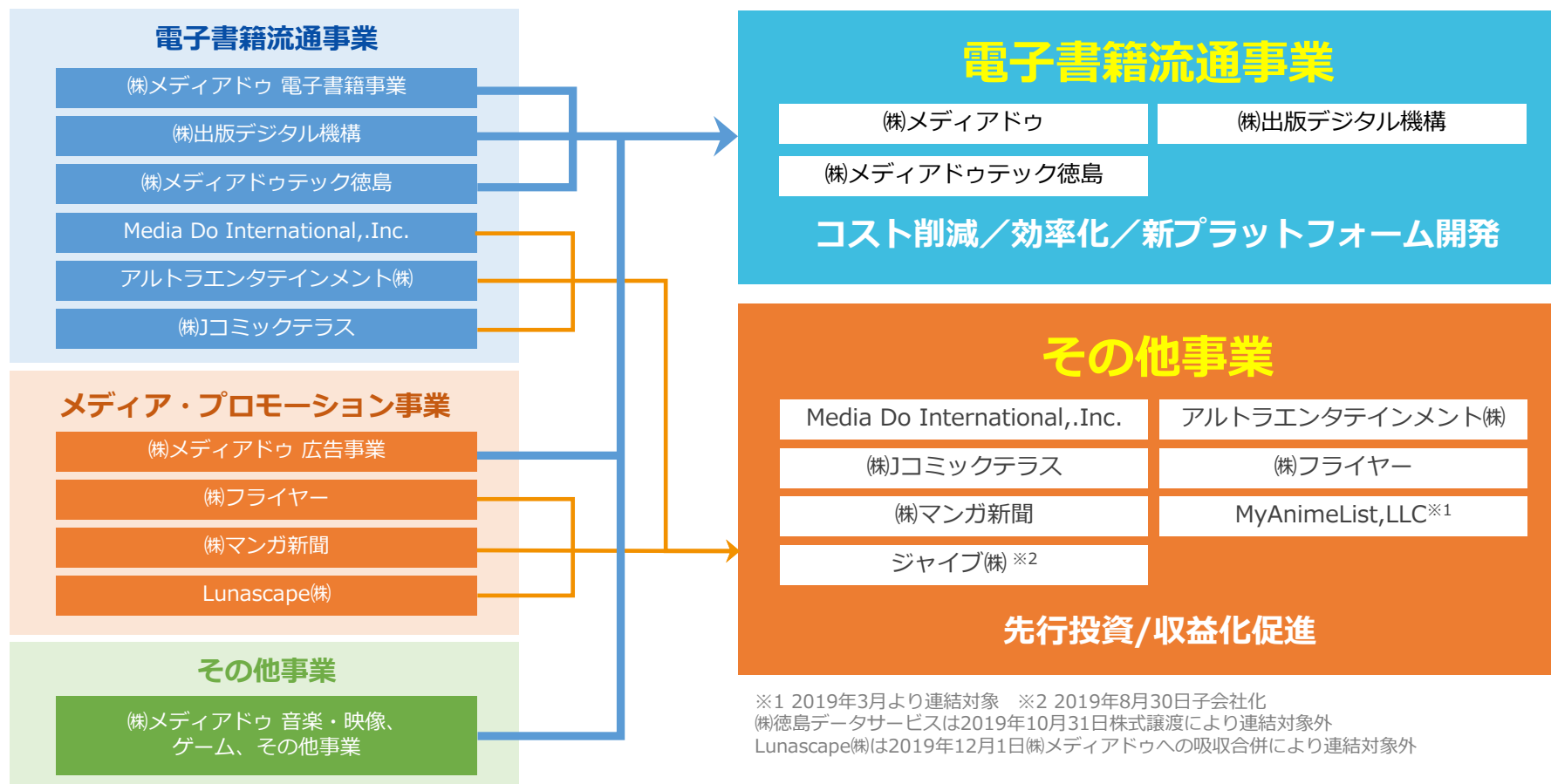
- 1996年：名古屋市に有限会社フジテクノを設立
- 1999年：名古屋市中村区名駅に株式会社メディアドゥを設立（その後、2社が合併）
- 2006年：電子書籍事業スタート
- 2013年：東証マザーズに上場
- 2014年：名古屋から東京へ本社移転
- 2016年：東証第1部に市場変更
- 2017年：株式会社出版デジタル機構を完全子会社化
持株会社体制へ移行し、社名をメディアドゥホールディングスに変更
新たに事業子会社として株式会社メディアドゥを設立
- 2019年：株式会社出版デジタル機構と株式会社メディアドゥが合併
（合併後の社名は株式会社メディアドゥ）



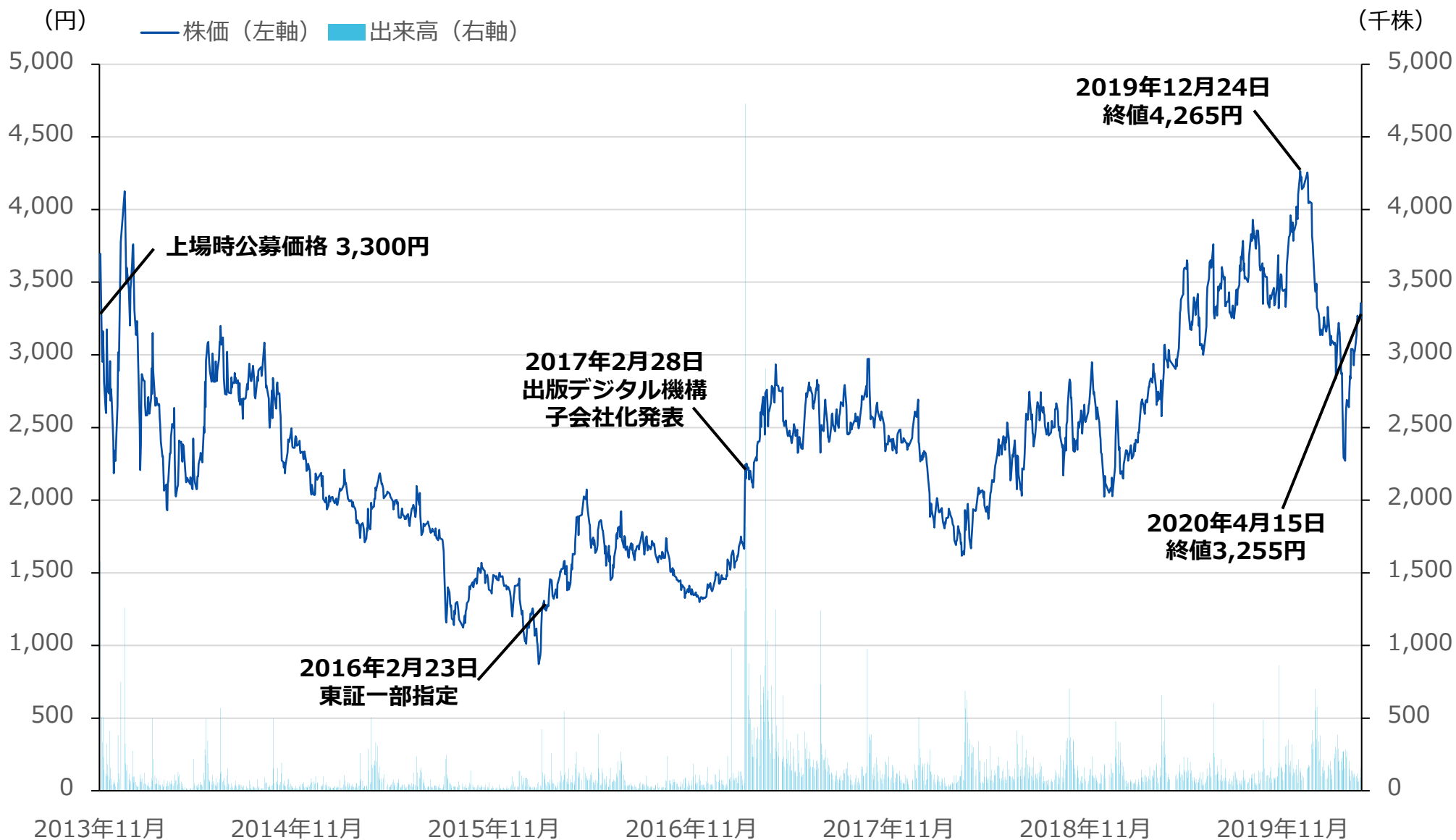
事業セグメントの変更

事業セグメントを変更し、グループの収益源である本業と周辺事業を区分

変更前（～2019年2月期） -----> 変更後（2020年2月期～）



上場以来の当社株価・出来高推移



※ 2014年3月1日、2014年12月1日の株式分割（2分割）にともなう調整後株価を記載。

会社概要

商 号 : 株式会社メディアドゥホールディングス (MEDIA DO HOLDINGS Co.,LTD.)

設 立 : 1999年4月

資 本 金 : 1,899百万円 (2020年2月末日現在)

上 場 取 引 所 : 東京証券取引所 市場第一部
証 券 コ ー ド : 3678

役 員	代表取締役	藤田 恭嗣	執行役員	山田 亮
	取締役	新名 新	執行役員	花村 佳代子
	取締役	鈴木 克征	執行役員	泉 純一郎
	取締役	溝口 敦	執行役員	千原 陽一
	社外取締役	榎 啓一	執行役員	苅田 明史
	社外取締役	高山 健		
	常勤監査役	大和田 和恵	※ 取締役は2020年5月28日開催予定の 定時株主総会にて選任予定	
	社外監査役	森藤 利明	※ 執行役員体制は2020年6月1日以降	
	社外監査役	椎名 毅		

本 社 : 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル5F (竹橋)
名 古 屋 オ フ ィ ス : 愛知県名古屋市中区丸の内3-5-10 名古屋丸の内ビル9F

子 会 社 : 株式会社メディアドゥ、Media Do International, Inc. (米国サンディエゴ)、株式会社メディアドゥテック徳島、
アルトラエンタテインメント株式会社、株式会社Jコミックテラス、株式会社出版デジタル機構、株式会社フライヤー、
株式会社マンガ新聞、MyAnimeList, LLC、ジャイブ株式会社

関 連 会 社 : LINE Book Distribution株式会社、株式会社エーアイスクエア、テック情報株式会社



株式会社
出版デジタル機構



ジャイブ株式会社

将来見通しに関する注意事項と 会計監査について

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、本資料内には会計監査人の監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性を完全に保証するものではありません。従いまして、本資料に全面的に依拠した投資等の判断を行なうことは控えていただかずようお願いいたします。

当社IR情報サイト

<https://mediado.jp/ir/>